

長尾の歴史 (3)

～古墳時代後半から奈良・平安初～

1 この時期、特色を示す遺跡

- ① 横穴墓・横穴式石室
 ・横穴墓; 大師穴, 長若穴横穴墓群; 朝生回横穴墓
 ・横穴式室; 法界塚, 馬箱古墳
- ② 火葬墓
 ・平戸又保火葬墓, 生田ホレ沼火葬墓

2 遺跡からどのような事がわかるか?

- ① 横穴墓・横穴式石室から
 - ① 死生観・死後、世界についての考え方の変化
 ・古事記; イサナギ・イサノミの命——黄夜の国・出雲
 - ② 生産技術の発展 → 田火網の拡大
 ・優秀の銅器, 大規模の土木工事
 谷ア田 → 沖積平野へ
 - ③ 九州・朝鮮半島のつながり
 ・横穴式石室の発生——5c末〜6c初九州にて。朝鮮南部, 百濟, 加羅, 王墓と似る。
 ・横穴墓の発生——6c初九州にて
- ② 八川崎北部の横穴墓、特色
 <A> 銅鏡の副葬——九州北部の副葬 (早い仙教の伝来?)
 浄元寺裏横穴墓群1号墓, 日向横穴
 頭椎 (ホコトウチ) 太刀——中央権力のつながり
 平瀬川 横穴= 隧道両横穴

No. /

八川崎の横穴式石室の特色
 多室式——高句麗の王墓の類似

★ この背景は

○ 通説; 534の武蔵国造一族の内乱に介入し大和朝廷は筑前小幡の拠点南関東に屯倉をおいた。これに知れず官僚(送)は、その幕府津田山、横穴や馬箱の横穴式石室を。

○ 私的仮説; 534の武蔵国造の内乱に介入した朝廷は、北九州の王朝。(以下は通説と同じ)

- 理由① 副葬品や墓型に九州の類似性がある
 ② 527の筑紫君磐井、反乱は、正しくは大和君材木王(敏仁)に継体天皇おくり送られる)の九州王朝と対する反乱。斗いの結果は互角で休戦。当時国際的に日倭の代名詞「朝庭」は北九州であった。九州王朝、官僚の派遣による。
 ③ 武蔵の内乱は、北九州——図説「天竺」に記述あり。
 ・馬箱古墳等、主は、668高句麗滅亡後、663の白村江の斗い以後に、弱体化した九州王朝の勢力範囲に。大和王朝は北九州王朝、敵対した高句麗を討伐して、結果。

- ② 火葬墓から.....
 A 死生観、死後、世界についての考え方の変化
 ・仙教の普及——魏は石炭の採掘から⇒火葬
 B 官僚達の墓
 ・刀子()、副葬と使われ、副葬
- ③ 朝鮮半島のつながり
 ・有馬後谷火葬墓、百濟、火葬墓、類似。

武蔵国造の継承をめぐる内乱
 『日本書紀』の安閑天皇元年(五三四)の条には、武蔵国の国造職をめぐる二人の豪族の争いと、国設置をめぐる興味ぶかい著名な記事がある。
 武蔵国造は、筑前直使主と同族小幡と、国造を相争ひて、年経るに決り難し。小幡は性阻して逆ふこと有り。心高びて嗔ふこと無し。密に就きて、腰を毛割りて、野君小幡に來む。而して使主を殺さむと謀る。使主驚りて走け出づ。京に詣りて、状を言。朝廷に聞かたまひ、使主を以て国造とす。而して小幡を誅す。国造使主、使主に交りて、照已あるを、諷みて国家の為に、機津、櫛花、多水、倉、四處に、兵を置き奉る。

<関保年表>

(●高塚古墳、◎政權試定、高塚古墳、——横穴墓、□火葬墓)

五反川流域	平瀬川流域	矢上川馬川流域	(日本列島)	(朝鮮)
300				
四世紀				
400	●久世伊屋之免		○横穴墓 九州出現	高句麗 百濟 新羅 百濟 百濟 百濟
五世紀			倭の五王	
500	●津田山		527 蘇我磐井乱 534 武蔵国造乱	532 百濟加羅4卿 532 任那加羅滅亡
六世紀	●伊賀塚 ●日向	◎西福寺		
600	●長者 ●長尾 ●上作延 ●釈聖寺	●法界塚 ●馬絹	白村江の戦い 663 668 高句麗滅亡	
七世紀	●長者 ●穴			
700			710 平城京	
八世紀	●長者 ●穴		774 平安京	
800				
九世紀				

これに関連して、『続日本紀』神護景雲三年(壬戌)六月十一日のつぎの記事が注目される。
 (前略)是に於て、武蔵國橋本郡の人飛鳥部吉志五百國、同國久良郡に於て白雉を獲て獻す。(中略)又國司及び久良郡司に各位一級に叙し、其の雉を獻する人五百國には、宜しく從八位下を授け、總士正、總士正、總士正、正税一斗束を賜ふべし。

この背景は、
 「吉志」といふ姓もつのは、早くから百濟・伽羅・新羅から渡来した長族で、朝廷に重用されて、外交面で秘傳に活躍。

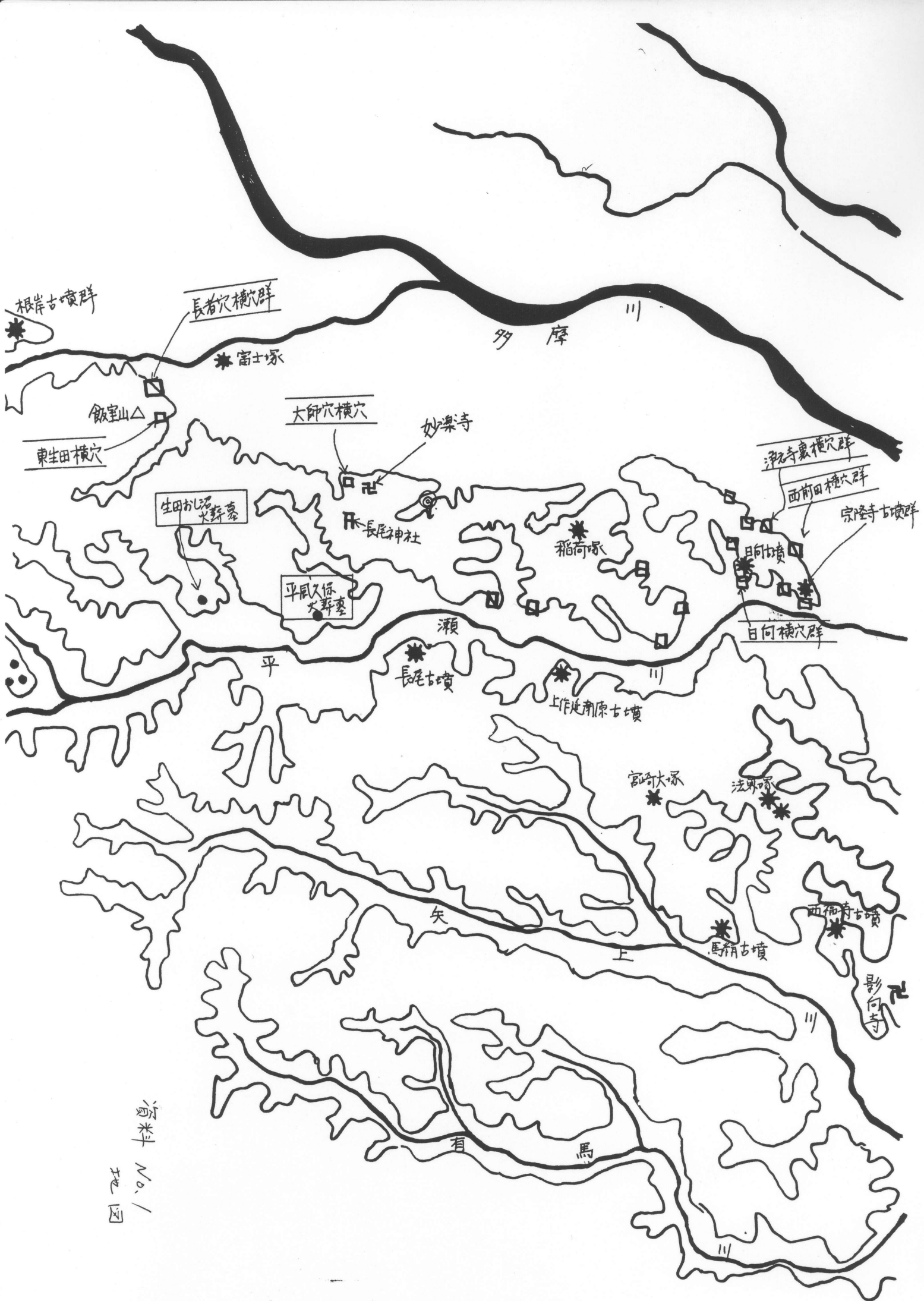
→ 川崎北部は6c中ごろ以後大和朝廷の屯倉であり、渡来系の官僚が多かった。
 ~ 以上渡来の通説 ~

○私説;
 蝦夷侵略との関保は(口)か? 久良郡其他として、朝廷(北九州—大和と北)は(南東)を重視していたのか? 穴塚は、急速に南進する長尾の穴塚。
 ① 穴塚(神護景雲) → 横穴墓の存在
 ② 軍馬の生産
 ③ 屯倉の管理 → (横穴墓の主、火葬墓の主)

理由 ① 常陸国土記にはすでに蝦夷の斗、穴塚あり
 ② 横穴墓と馬の生産あり

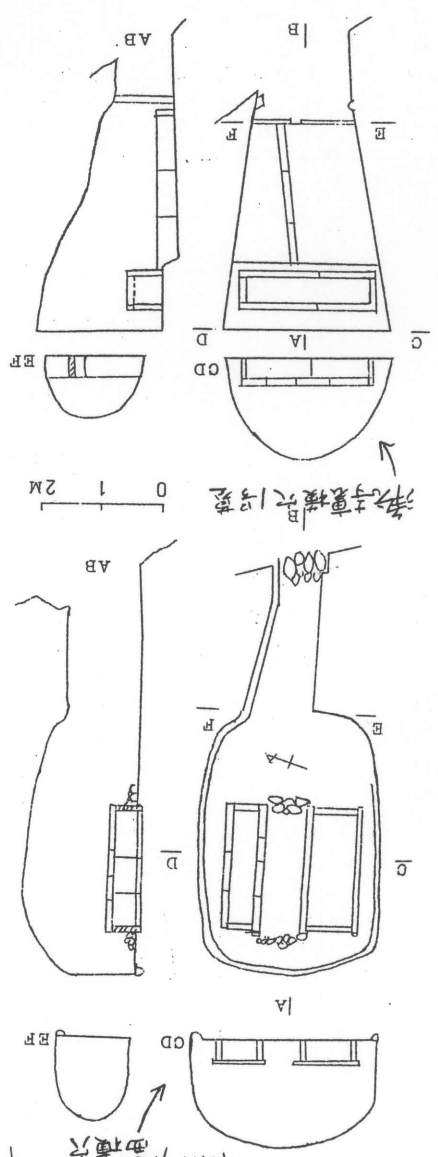
③ 其他。
 ○平瀬川流域と奈良時代の寺院あり、どうして?
 理由 ① 銅鏡=仏具、早くから仏教の伝来
 ② 市北川の他地域は穴塚、奈良時代寺院あり。

●参考文献:
 ① 川崎歴史全集版「穴塚の歴史—川崎」 村上直孝 文芸春秋 1981年
 ② 「古代—古代—南武蔵」 村岡文夫 有隣新書 1993年
 ③ 九州王朝と710...「失物水七州王朝」 吉田武彦著 朝日新聞社 1973年 (朝日文庫行版)

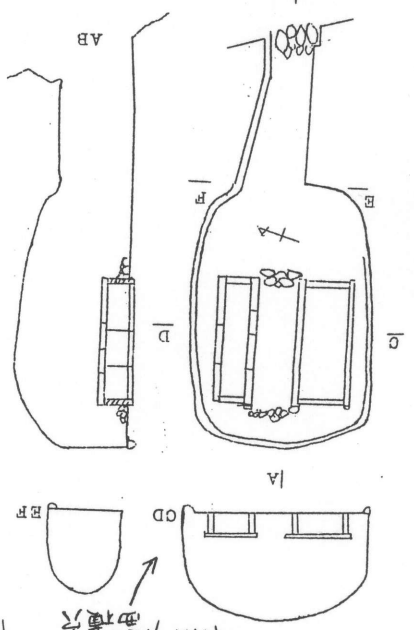


資料 No. 1
地図

0 1 2M

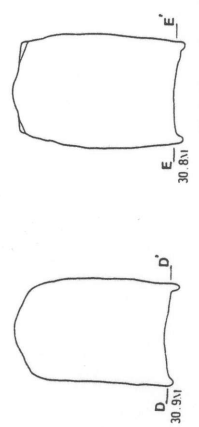


津島横穴1号墓



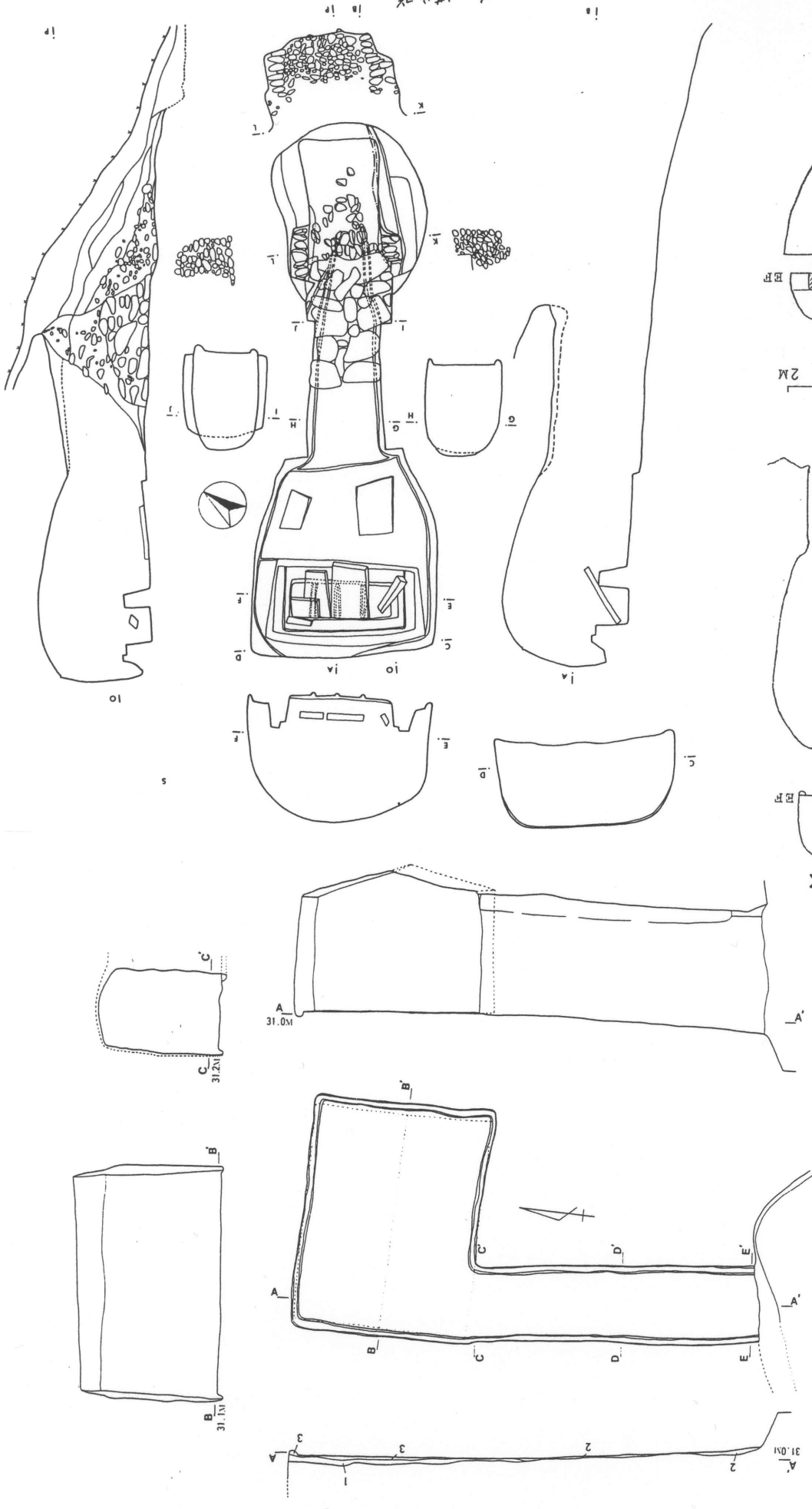
平瀬川横穴

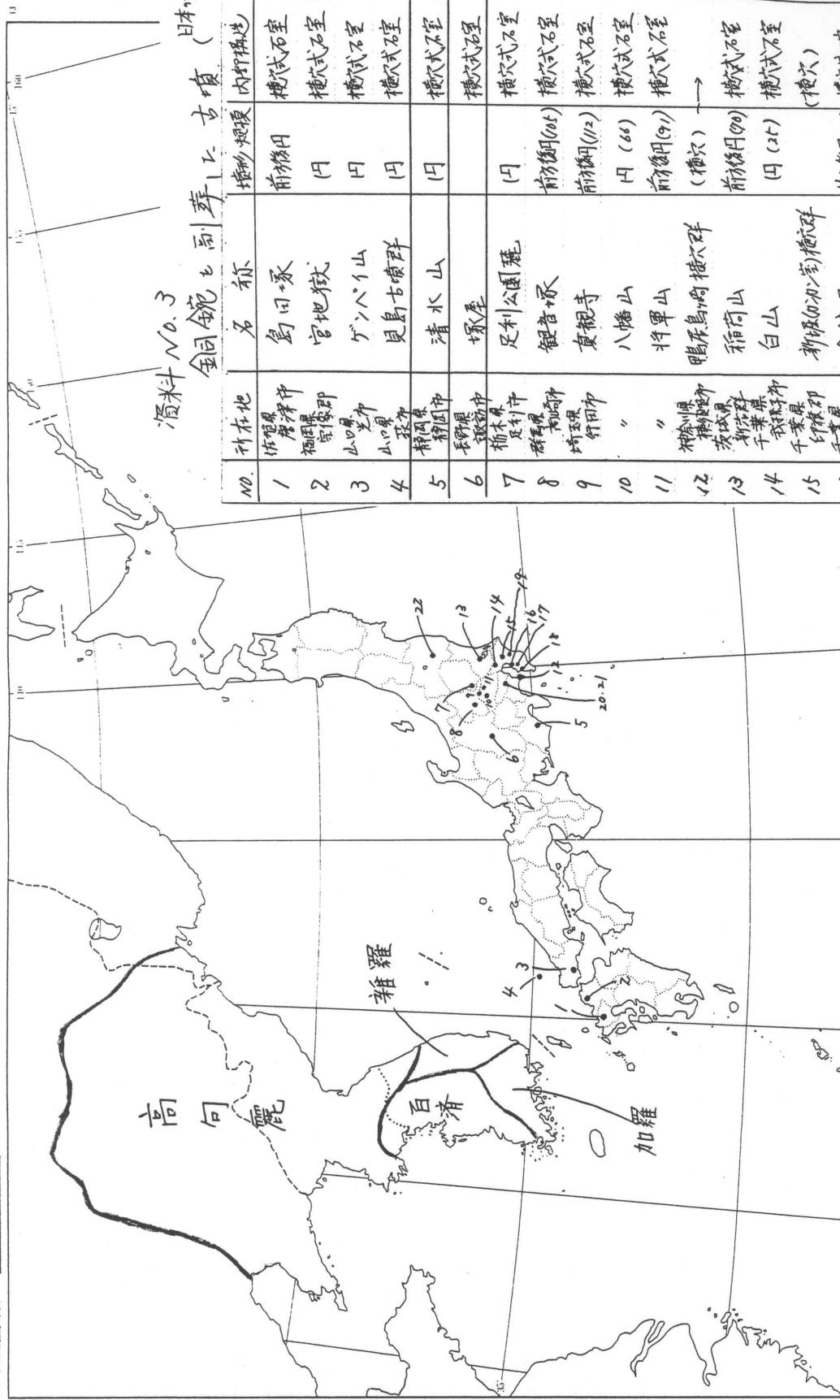
第3図 遺構実測図 (東生田横穴墓)



西生田横穴群 第3号横穴墓 平面图及び断面图

0 3m

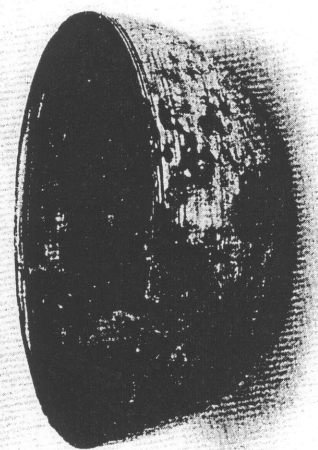




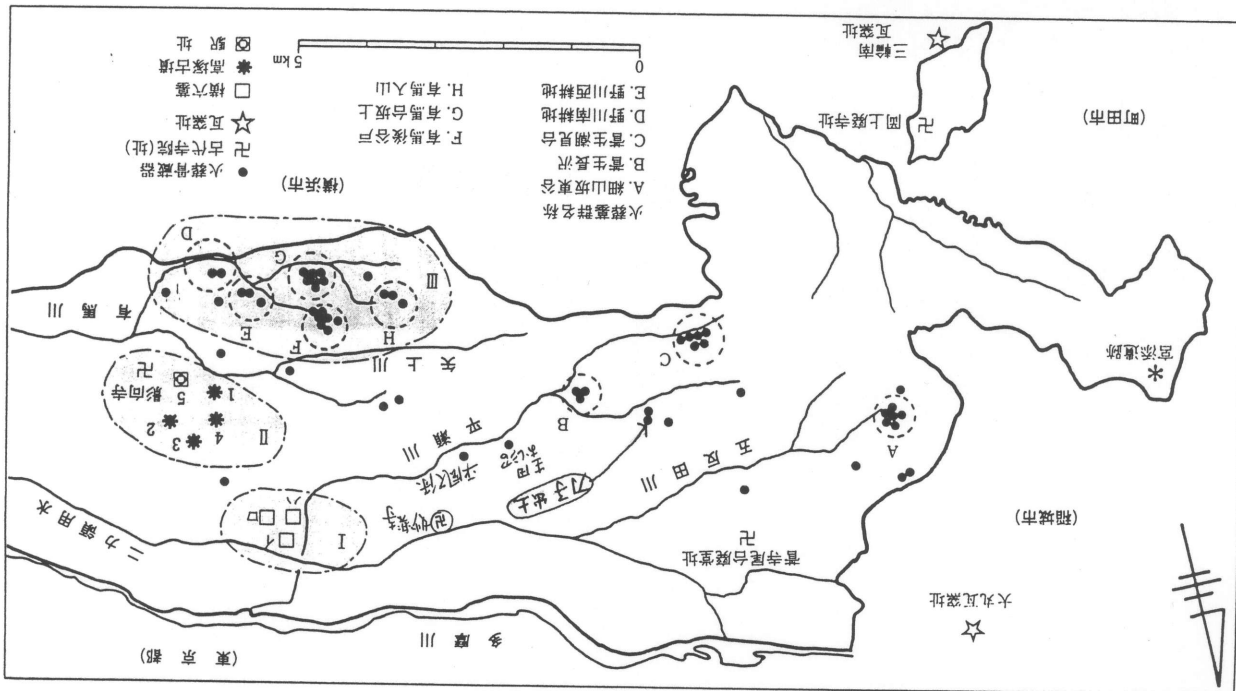
資料 No. 3

銅鏡と高野山古墳 (日本書紀IV 1966年刊行)

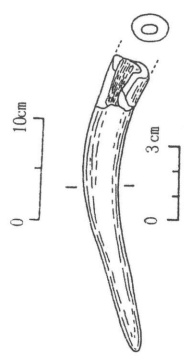
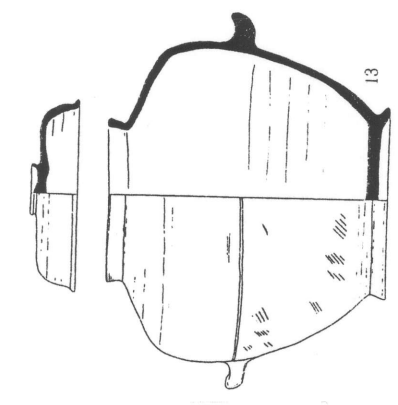
NO.	所在地	名称	墳形規模	内打構造	出土地
1	佐賀県唐津市	島田塚	前方後円	横穴式石室	金銅冠等出土
2	福岡県宮田郡	宮地塚	円	横穴式石室	金銅冠馬具等
3	山口県山口市	ゲンハイ山	円	横穴式石室	環頸銅大刀等
4	山口県山口市	見島古墳群	円	横穴式石室	金銀環等出土
5	福岡県糟屋郡	清水山	円	横穴式石室	金環馬具等
6	福岡県糟屋郡	塚屋	円	横穴式石室	首馬具等
7	福岡県糟屋郡	足利公園苑	円	横穴式石室	金環馬具等
8	福岡県糟屋郡	銀倉塚	前方後円(0.5)	横穴式石室	金環馬具等
9	福岡県糟屋郡	真観寺	前方後円(1.2)	横穴式石室	金環馬具等
10	福岡県糟屋郡	八幡山	円(6.6)	横穴式石室	乾燥指等
11	福岡県糟屋郡	將軍山	前方後円(9.1)	横穴式石室	金環金銅環・惣等
12	福岡県糟屋郡	鴨居島崎横穴群	(横穴)	→	圭頭大刀等
13	福岡県糟屋郡	稻荷山	前方後円(0)	横穴式石室	金環金銅環等
14	福岡県糟屋郡	白山	円(2.5)	横穴式石室	金環直刀等
15	福岡県糟屋郡	新塚(加波岩)横穴群	前方後円(9.4)	(横穴)	金鏡金銅環等
16	福岡県糟屋郡	金鐘塚	前方後円(6.5)	横穴式石室	銅鏡等
17	福岡県糟屋郡	丸山	前方後円(6.5)	横穴式石室	金環掛甲等
18	福岡県糟屋郡	内裏塚北方	前方後円	?	金環掛甲等
19	福岡県糟屋郡	原塚	前方後円(6.0)	横穴式石室	金環金銅鏡等
20	福岡県糟屋郡	浄光寺裏横穴1号		(横穴)	直刀等
21	福岡県糟屋郡	日向横穴3号		(横穴)	金銅鏡・馬具等
22	福岡県糟屋郡	蝦表穴	円(3.7)	横穴式石室	



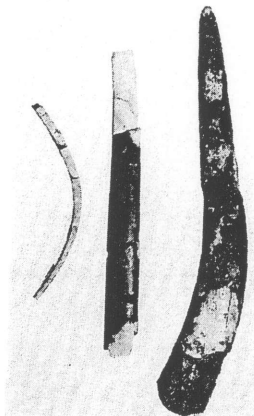
久地浄元寺裏横穴墓から発見された銅鏡



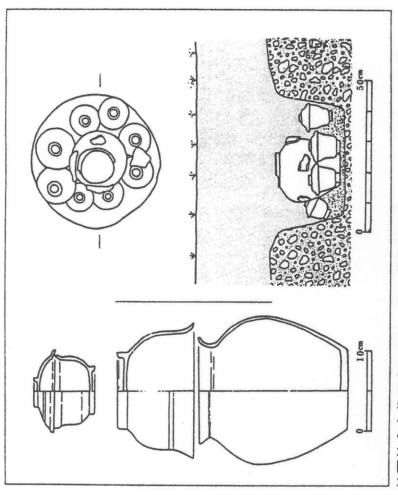
第74図 火葬骨蔵器・寺院址・瓦窯址・横穴墓・高塚古墳・野田古墳・駒込古墳・西福寺古墳 2・西福寺古墳 3・法界塚 4・高塚大塚 5・推定小高塚址
 △平瀬川(利根川)の道際横穴墓(頭椎大刀) 1・馬絹古墳 2・西福寺古墳 3・法界塚 4・高塚大塚 5・推定小高塚址 (銅鏡) □ 瓦窯址 ☆ 瓦窯址 ● 火葬骨蔵器 ○ 古代寺院址(瓦窯址) ○ 瓦窯址



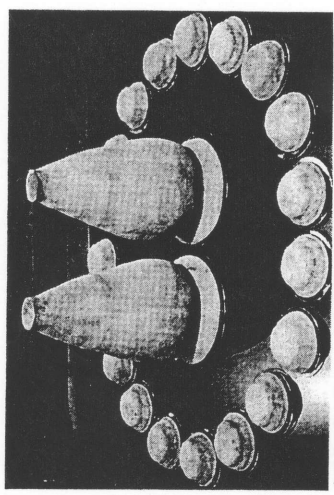
火葬骨蔵器 (12~14), 13に伴出の鹿角製の刀子柄実測図



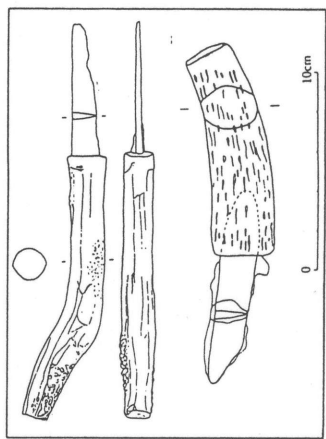
火葬墓伴出遺物
 上より貝輪 (22に伴出)
 簪状骨製品 (43に伴出)
 鹿角製刀子柄 (13に伴出)



韓国扶余中井里鹿山遺跡・第2号墓の遺構(右)と遺物(左)



有馬後谷戸古墓の心室多塚式の復元状況 (川崎市市民ミュージアム)



第67図 鹿角柄と着柄された刀子(上・大阪亀井遺跡, 下・韓国海南郡谷里見塚)(原報告より転載)

資料 No. 5

古事記 卷 神代

(元祿日本古事記文庫大系)

既に國を生み竟へて、更に神を生みき。故、生める神の名は、大事忍男神。次に石土昆古神を生み、次に石集比賣神を生み、次に大風木戸別神を生み、次に天之吹上男神を生み、次に大屋昆古神を生み、次に風木

(中略)

次に生める神の名は、鳥之石船神、亦の名は天鳥船と謂ふ。次に大宜新比賣神を生みき。次に火之疾速速男神を生みき。亦の名は火之疾速速男神と謂ひ、亦の名は火之速具士神と謂ふ。此の子を生みしに因りて、美登、次かえ之病み臥せり。多具理速に生れる神の名は、金山昆古神、次に金山昆古神。次に尿に成れる神の名は、波速夜須昆古神、次に波速夜須昆古神。次に尿に成れる神の名は、彌波能能神、次に和久産巢日神。此の神の子は、豊宇氣昆古神と謂ふ。故、伊邪那美神は、火の神を生みしに因りて、遂に神遊り坐しき。

凡べて伊邪那岐、伊邪那美の二はしらの神、共に生める鳥、彦根鳥、神參拾伍神。

故に伊邪那岐命詔りたまひしく、「愛しき我が那邇妹の命を、と那の二ははは子ハ一つ木に易へつるかも。」と謂りたまひて、乃ち御杖方に御觸ひ、御足方に御觸ひて哭きし時、御座に成れる神は、香山の岐尾の木の本に坐して、立澤の女神と名づく。故、其の神遊りし伊邪那美神は、出雲國と伯耆國との界の比婆の山に狩りき。

是に伊邪那岐命、御佩せる十卷劍を抜きて、其の子迦具士神の頭を斬りたまひき。爾に其の御刀の前に着ける血、湯津石村に走り就きて、成れる神の名は、

石拆神。次に根拆神。次に石筒之屋神。次に御刀の本に着ける血も亦、湯津石村に走り就きて、成れる神の名は、理日神。次に細速日神。次に建御雷之男神。亦の名は建布都神。亦の名は豐布都神。次に御刀の手の上に集まれる血、手保より漏き出でて、成れる神の名は、閻波加美神。

上の件石拆神以下、閻御建羽神以前、并せて八神は、御刀に因りて生れる神なり。

殺さし迦具士神の頭に成れる神の名は、正龍山津見神。次に胸に成れる神の名は、波瀾山津見神。次に腹に成れる神の名は、奥山山津見神。次に膝に成れる神の名は、關山津見神。次に左の手に成れる神の名は、志鑿山津見神。次に右の手に成れる神の名は、羽山津見神。次に左の足に成れる神の名は、原山津見神。次に右の足に成れる神の名は、戸山津見神。故、斬りたまひし刀の名は、天之尾羽張と謂ひ、亦の名は伊都之尾羽張と謂ふ。

是に其の妹伊邪那美命を相見むと欲ひて、黄泉國に追ひ仕まき。爾に取の藤戸より出で向かへし時、伊邪那岐命、語らひ詔りたまひしく、「愛しき我が那邇妹の命、吾と汝と作れる國、未だ作り竟へず。故、還るべし。」とのりたまひき。爾に伊邪那美命答へ白ししく、「悔しきかも、速く來て。吾は黄泉國へ喫爲つ。然れども愛しき我が那勢の命、入り來せざる事恐し。故、還らむと欲ふを、且、黄泉神と相論はむ。我をな神たまひせ。」とまをしき。如此白して其の殿の内に還り入りし間、甚久しく待ち難たまひき。故、左の御美豆良に刺せる湯津津間櫛の男柱一箇取り闕きて、一つ火焼して入り見たまひし時、宇士多加禮許呂岐三頭には大雷居り、胸には火雷居り、腹には黒雷居り、陰には拆雷居り、左の手に黄雷居り、右の手に土雷居り、左の足には鳴雷居り、右の足には伏雷居り、并せて八はしらの雷神成り居りき。

是に伊邪那岐命、見長みて逃げ還る時、其の妹伊邪那美命、「吾に堅見せつ。」と言ひて、即ち珠母志許賣を遣はして追はしめき。爾に伊邪那岐命、黒御繩を取りて控け棄つれば、乃ち彌子生りき。是を疵ひ食む間に、逃げ行くを、猶追ひしかば、亦其の右の御美豆良に刺せる湯津津間櫛を引き闕きて投げ棄つれば、乃ち舞生りき。是を抜き食む間に、逃げ行きき。且後には、其の八はしらの雷神に、千五百の黄泉軍を討て追はしめき。爾に御佩せる十卷

劍を抜きて、後手に布俊都都を逃り來るを、猶追ひて、黄泉比良坂の坂本に到りし時、其の坂本に在る桃三箇を取りて、待ち懸ては、悉に返りけり。爾に伊邪那岐命、其の桃子に告りたまひしく、「汝、吾を助けしが如く、葦原中國に有らゆる宇都志伎、昔人草の、若し潮に落ちて思ひ惚む時、助けべし。」と告りて、名を賜ひて黄泉加牟豆美命と號ひき。

最後に其の妹伊邪那美命、身自ら追ひ來りき。爾に千引の石を其の黄泉比良坂に引き塞へて、其の石を中に置きて、各對ひ立て、事戸を度す時、伊邪那美命言ひしく、「愛しき我が那勢の命、如此爲ば、汝の國の人草、一日に千頭絞り殺さむ。」といひき。爾に伊邪那岐命詔りたまひしく、「愛しき我が那邇妹の命、汝然爲ば、吾一日に千五百の産屋立てむ。」とのりたまひき。是を以ちて一日に必ず千人死に、一日に必ず千五百人生まるるなり。故、其の伊邪那美命を號りて黄泉津大神と謂ふ。亦云はく、其の追斯殺斯を以ちて、道敷大神と號くといふ。亦其の黄泉の坂に塞りし石は、遣反之大神と號け、亦塞り坐す黄泉戸大神と謂ふ。故、其の謂はゆる黄泉比良坂は、今、出雲國の伊賦夜坂と謂ふ。